



**TestComplete**  
by SMARTBEAR

Installation Guide

インストールガイド

## このガイドについて

このガイドには、TestComplete のインストールとメンテナンスに関するシステム要件、重要な注意事項、操作手順の説明が含まれています。

## 著作権情報

© 2019 SmartBear Software. All rights reserved.

すべての SmartBear の製品名は、SmartBear Software の商標または登録商標です。その他記載の商標、サービス マーク、商品名は各社の商標または登録商標です。

2019.4.10 TestComplete 14

Translated by **XLsoft Corporation**

# 目次

このガイドについて.....	2
著作権情報.....	2
目次.....	3
インストールの前に.....	5
インストール時の注意事項.....	5
インストールの前準備.....	5
システム要件.....	6
その他の要件.....	7
ユーザー権限.....	13
Android アプリケーション テストの準備.....	13
TestComplete のインストール パッケージの入手.....	15
TestComplete のインストール.....	17
評価版からのアップグレード.....	20
TestComplete のライセンス.....	21
TestComplete のライセンスについて.....	21
TestComplete 評価版ライセンスのアクティベート.....	21
商用版 Node-Locked (ノードロック) ライセンスのアクティベート.....	22
Floating User (フローティング ユーザー) ライセンスのアクティベート.....	23
自動アクティベート.....	24
手動アクティベート.....	25
TestExecute ライセンスのインストールとアクティベート.....	27
TestComplete のメンテナンスとアンインストール.....	28
TestComplete インストールの変更.....	28
TestComplete のアップデート.....	28
TestComplete アップデートの確認.....	29
アップデートのインストール.....	29
TestComplete の修復.....	29
TestComplete のアンインストール.....	30
TestComplete 設定のインポートとエクスポート.....	31
TestComplete のサイレント モードによるインストール.....	33
2 つの方法の違い.....	33
利用規約に同意する.....	33
特定のコマンドライン引数を使用して TestComplete のインストール.....	34
InstallShield を使用して TestComplete をインストール.....	36
トラブルシューティング.....	38
インストールに関する問題.....	38

---

<i>Error: Some installation files are corrupt.Please download a fresh copy...</i> (一部のインストールパスが破損しています。インストールパッケージを再度ダウンロードしてください...).....	38
<i>Error 1304.Error writing to file tcWPFHelpers.dll. (tcWPFHelpers.dll ファイルの書き込みエラー)....</i>	38
<i>Error 1320.The specified path is too long C:\ProgramData\Documents\ TestComplete 14 Samples (指定されたパスが長過ぎます).....</i>	39
<i>Error 1628. Failed to complete installation (インストールを完了できませんでした).....</i>	40
ライセンスに関する問題.....	41
<b>SmartBear Software へのお問い合わせ.....</b>	<b>42</b>
エクセルソフト株式会社へのお問合せ .....	42
<b>索引.....</b>	<b>43</b>

# インストールの前に

## インストール時の注意事項

TestComplete をインストールする前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- TestComplete をインストールするコンピューターが 6 ページの「システム要件」で説明されているハードウェア要件とソフトウェア要件を満たしていること。
- 「ユーザー権限」の説明にあるようにユーザー アカウントに必要な権限があること (13 ページ)。
- TestComplete は、"すべてのユーザー" モードでインストールされます。つまり、インストール後、インストールしたユーザーだけでなく、コンピューターを使用するすべてのユーザーが TestComplete を利用できます。

TestComplete 10 以前のバージョンがインストールされているコンピューターにも TestComplete 14 を正常にインストールして使用することができます。既存の旧バージョンの TestComplete は TestComplete 14 にアップグレードされないことにも注意してください。以前のバージョンがインストールされている場合には、TestComplete 14 にアップグレードするか、または共存させるかを検討してください。

- 以前のバージョンから TestComplete 14 へアップグレードするには、最初に古いバージョンをアンインストールしてください。30 ページの「TestComplete のアンインストール」を参照してください。

古いバージョンをアンインストールする前に、カスタマイズした TestComplete 設定を保存しておくと、新しいバージョンのインストール後に設定を復元できます。詳細は、31 ページの「TestComplete 設定のインポートとエクスポート」を参照してください。

- 以前のバージョンと TestComplete 14 を共存させる場合には、特にほかの準備は必要ありません。

TestComplete 11 および 12 で作成されたテスト プロジェクトは、ほとんど変更することなく (あるいはまったく変更せずに) TestComplete 14 で動作します。TestComplete 10 以前のバージョンで作成されたテストの場合は、移行処理が必要なことがあります (TestComplete ヘルプの「*Migrating Projects Created in Earlier Versions to TestComplete 14*」を参照してください)。ただし、TestComplete 14 で作成または編集されたプロジェクトは旧バージョンとは互換性がないことに注意してください。

## インストールの前準備

このセクションでは、TestComplete を正常にインストールして使用するために必要なハードウェア、ソフトウェア、ユーザー権限を説明します。TestComplete の最新のシステム要件については、Web サイトを参照してください。

- <http://smartbear.com/products/qa-tools/automated-testing/system-requirements/>

## システム要件

### サポートされる Windows バージョン

Windows 10  
(32 ビット/64 ビット エディションの両方)

Windows Server 2016

Windows 8 および 8.1  
(32 ビット/64 ビット エディションの両方)

Windows Server 2012  
Windows Server 2012 R2

Windows 7 Service Pack 1  
(32 ビット/64 ビット エディションの両方)

Windows Server 2008 R2  
(Server Core インストールは WoW64 コンポーネントがインストールされている場合のみサポートされます。)

既知の問題がある更新プログラムを除き、Windows の最新のサービスパックとアップデートを適用することを推奨します。既知の問題がある更新プログラムのリストは、TestComplete のドキュメントで確認できます。

➤ <https://support.smartbear.com/testcomplete/docs/general-info/configuring/windows-specifics.html>

### 推奨するシステム要件

- 64 ビットのオペレーティング システム (Windows 7 以降など)。
- Microsoft Internet Explorer 10.0 以降。
- インテル Core i5 プロセッサまたはインテル Core i7 プロセッサ (第 3 世代)。
- RAM 8 GB 以上。
- 5 GB 以上のシステム ディスク上の空き容量。
- 2 GB の空きディスク容量 (インストール時)、さらにテストの実行時に、一時ファイル用の空きディスク容量が必要 (下記の「必要な空きディスク容量」を参照してください)。
- 1280×1024 以上の解像度のモニター (100% DPI を使用する場合)。より高い DPI 値を使用する場合は、より高解像度が要求されます。
- マウスまたはその他のポインティング デバイス。

### 最小システム要件

- Windows 7 Service Pack 1。
- Microsoft Internet Explorer 10.0 以降。
- インテル Core 2 Duo プロセッサ 2 GHz 以上。
- RAM 2 GB。
- 4 GB 以上のシステム ディスク上の空き容量。
- 1.5 GB の空きディスク容量 (インストール時)、さらにテストの実行時に、一時ファイル用の空きディスク容量が必要 (下記の「必要な空きディスク容量」を参照してください)。
- 1024×768 以上の解像度のモニター (100% DPI を使用する場合)。

- マウスまたはその他のポインティング デバイス。

## 必要な空きディスク容量

TestComplete は、テスト実行時に一時ファイルを作成し、使用します。TestComplete が必要とする空きディスク容量は、プロジェクトのサイズに依存します。小さなプロジェクトを実行するには、システム ディスク上に 500 MB の空きディスク容量が必要です。大きなプロジェクトを実行するには、1 ~ 2 GB の空きディスク容量が必要になります。

テストを実行する前に、空きディスク容量に注意してください。テスト実行時にシステム ディスクに空き容量がない場合、TestComplete は誤動作します。たとえば、TestComplete はコマンドへの応答を停止する、テスト イベントを生成しない、パネル レイアウトが壊れるなどの可能性があります。

## ライセンス

TestComplete のライセンスをアクティベートするには、コンピューターがインターネットに接続されている必要があります。ライセンスをアクティベートした後は、インターネット接続は必要ありません。

フローティング ユーザー ライセンスで TestComplete を使用するには、ネットワーク接続が必要です。

TestComplete のライセンスおよびアクティベートについての詳細は、TestComplete ヘルプの「*Licensing*」セクションを参照してください。

## 仮想マシンでの TestComplete の実行

Microsoft Virtual PC や VMware Workstation などの仮想マシンでは、システム リソースを著しく消費します。一般的に、仮想マシン上でのアプリケーションの実行は、デスクトップ コンピューター上よりも遅くなります。同時に 1 台のコンピューター上で実行する仮想マシンが多いほど、動作が遅くなります。仮想マシン上で TestComplete を使用するには、仮想マシンが適度なパフォーマンスを得るために、推奨システムよりも高いパフォーマンスのホスト コンピューターを使用してください。

**重要:** 仮想マシンで TestComplete を使用するには、フローティング ユーザー ライセンスが必要です。詳細は、TestComplete ヘルプの「*Licensing*」セクションを参照してください。

## その他の要件

### TestComplete Platform

#### Microsoft Visual Studio との統合

- Visual Studio との統合パッケージがインストールされている必要があります。

このパッケージは、TestComplete に付属し、<TestComplete 14>\VS Integration フォルダーにあります。

- TestComplete のテストを Microsoft Visual Studio で作成したテスト プロジェクトに追加して、Visual Studio から実行するには、次のいずれかのバージョンの Microsoft Visual Studio が必要です。

- Microsoft Visual Studio 2015 - 2017 (Community、Enterprise、または Professional Edition)。
- Microsoft Visual Studio 2013 (Community、Ultimate、Premium、または Professional Edition)。
- Microsoft Visual Studio 2010 - 2012 (Ultimate、Premium、または Professional Edition)。
- Visual Studio がインストールされていないコンピューターやラボ環境から、TestComplete のテストを Visual Studio のテスト プロジェクトの一部としてリモート実行するには、Microsoft Visual Studio 2010 - 2013 Test Agent が必要です。
- TestComplete のテストをビルドおよびリリース パイプラインの一部として実行するには:

- 次のいずれかのバージョンの Team Foundation Server が必要です。

Team Foundation Server 2010 - 2018 On-Premises。

Azure DevOps Services (旧称 Visual Studio Team Services または VSTS)。

**注意:** TestComplete テストを実行するには、セルフホスト (プライベート) エージェントを使用してください。Microsoft によりホストされたエージェントでの TestComplete テストの実行はサポートされていません。

ホストされたエージェントとプライベート エージェントの詳細については、[docs.microsoft.com/en-us/azure/devops/pipelines/agents/agents](https://docs.microsoft.com/en-us/azure/devops/pipelines/agents/agents) を参照してください。

- テストが実行されるコンピューター上で、実行するタスクと使用する Team Foundation Server のバージョンに応じて、次のソフトウェアをインストールする必要があります。

Team Foundation Build Service

- または -

Build and Release Agent for Windows

- または -

Test Agent for Microsoft Visual Studio



## Microsoft Office Excel データ接続

テストで Microsoft Office Excel 2007 - 2013 ファイルを使用するには、コンピューターに Microsoft Office 12.0 Access データベース エンジン OLE DB Provider がインストールされている必要があります。

- ❗ TestComplete と同じビット数のデータ プロバイダーを持つことが重要です。そうしないと、「必要なデータソースドライバがインストールされていません」というエラーメッセージが表示されます。したがって、64 ビットの TestComplete を使用する場合は、64 ビットバージョンのプロバイダーが必要です。

次のソフトウェアの一部としてデータ プロバイダーを入手できます。

- Microsoft Access データベース エンジン 2010 再頒布可能パッケージ。Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

➤ <https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=13255>

- ❗ Microsoft Office 2010 が 32 ビットの場合、64 ビット プロバイダーのインストールは失敗します。この場合、次の手順を実行してインストールします。

1. 対応するバージョンのインストーラーを /passive オプションで実行します。
2. レジストリ エディターを実行します。これを行うには、スタートメニューを開き、regedit と入力して ENTER を押します。
3. 次のレジストリキーを見つけます。  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Office\14.0\Common\FilePaths
4. mso.dll レジストリ値を削除するか、名前を変更します。
5. そうしないと、最初の Excel 実行後にドライバーが破損します。

- Microsoft Office Excel 2007 - 2013。
- 2007 Office System Driver: Data Connectivity Components。Microsoft Web サイトからダウンロードできます。

➤ <https://www.microsoft.com/en-us/download/confirmation.aspx?id=23734>

## ADO サポート

テストで Microsoft Active Data Objects (ADO) を使用するには、Microsoft Data Access Components (MDAC) ver. 2.1 またはそれ以降がコンピューターにインストールされている必要があります。次の場所から最新バージョンの MDAC をダウンロードできます。

➤ <http://msdn2.microsoft.com/en-us/data/aa937730.aspx>

## HP Quality Center 統合

TestComplete Connector for HP Quality Center を利用するには、**HP Quality Center Connectivity Add-In** がコンピューターにインストールされている必要があります。このアドインは、Quality Center の **Add-ins Page** からダウンロードできます。

## Atlassian JIRA 統合

Atlassian JIRA データベースに直接 TestComplete ログから問題を送信するには:

- Atlassian JIRA 5.0 - 7.3 が、JIRA サーバーにインストールされていなければなりません。
- JIRA は、リモート API コールを受け付けなければなりません。
- PRC プラグインが JIRA サーバーにインストールされていなければなりません。
- JIRA プロジェクトで使用する問題タイプ スキームは、**Bug** タイプでなければなりません。

JIRA プロジェクトの Bug 問題には、以下の項目がなければなりません。

- *Summary*
- *Description*
- *Priority*
- *Assignee*
- *Environment*

JIRA プロジェクトの Bug 問題は添付を許可していなければなりません。

JIRA プロジェクトが Bug 問題タイプでない場合、または Bug 問題に必要なフィールドがない場合、JIRA プロジェクトの管理者にご確認ください。

JIRA の設定、JIRA プロジェクトの管理については、[JIRA ドキュメント](#)を参照してください。

## デスクトップ テスト

### .NET および WPF アプリケーション テスト

.NET アプリケーションをテストするには、Microsoft .NET Framework v. 2.0 - 4.7.1 が必要です。

### WPF アプリケーション テスト

WPF アプリケーションをテストするには、Microsoft .NET Framework v. 3.0 - 4.7.1 が必要です。

### Java アプリケーション テスト

Java アプリケーションをテストするには、Java 実行環境 (JRE) ver. 5 - 10 がコンピューターにインストールされている必要があります。TestComplete は、32 ビットおよび 64 ビットの両方の Java バージョンをサポートします。

## Windows ストア アプリケーション テスト

Windows ストア アプリケーションをテストするには、TestComplete を 64 ビット オペレーティング システム上の次のサブフォルダーにインストールしなければなりません: <Program Files> (または <Program Files (x86)>) フォルダー。

## Web テスト

### Web ブラウザー

Web テストには、次の Web ブラウザーとアプリケーションを使用できます。

- Microsoft Edge (32 ビットおよび 64 ビット バージョンの両方)。
- Internet Explorer ver. 10 - 11 (32 ビットおよび 64 ビット バージョンの両方)。  
Internet Explorer 10 および 11 の Modern UI (Metro) バージョンは、現在サポートされていません。
- Google Chrome 71 (32 ビットおよび 64 ビット バージョンの両方)。  
Modern UI (Metro) モードで実行している Chrome は、現在サポートされていません。
- Internet Explorer ver. 52, 60 - 64 (32 ビットおよび 64 ビット バージョンの両方)。  
**注意:** Firefox 上でテストを実行するには、ブラウザーを single-process mode に切り替えてください。詳細は、TestComplete ドキュメントで「*Preparing Firefox for Web Testing*」を参照してください。
- Chromium Embedded Framework (CEF) バージョン 3.3578.1860 以前を使用する .NET、Java、およびネイティブ アプリケーション (C++、Delphi など)。
- Electron バージョン 1.8.2、2.0.2、3.0.2 で作成されたアプリケーション。
- 埋め込みの Microsoft WebBrowser コントロールを使用するアプリケーション。

**注意:** Firefox および Chrome の最新バージョンは、頻繁にリリースされます。最新バージョンの Firefox および Chrome のサポートは、パッチとして提供され、SmartBear の Web サイトからダウンロードできます。

➤ <http://support.smartbear.com/downloads/testcomplete/firefox-patches/>

➤ <http://support.smartbear.com/downloads/testcomplete/chrome-patches/>

Web テスト用に Web ブラウザーおよび TestComplete を準備する必要があります。たとえば、Microsoft Edge をテストするには、TestComplete を <Program Files> (または 64 ビット Windows 上では <Program Files (x86)>) フォルダーにインストールする必要があります。Web テストを実行するために必要となるご利用のブラウザーの要件については、TestComplete をインストールした後で、TestComplete ヘルプの「*Considerations for Web Testing*」トピックを参照してください。

## Flash/Flex アプリケーション テスト

Flash/Flex アプリケーションのテストには、Adobe Flash Player バージョン 10.1.102.64 またはそれ以降がコンピューターにインストールされている必要があります。Flash Player の最新バージョンは、次の場所からダウンロードできます。

➤ <http://get.adobe.com/flashplayer/>

**注意:** *FlashInjector* モジュールを使用して Flash および Flex アプリケーションをテストする場合は、コンピューターに Adobe Flash Player のデバッグ バージョンをインストールする必要があります。

## AIR アプリケーション テスト

AIR アプリケーションをテストするには、コンピューターに Adobe AIR 2、3、または 17 がインストールされている必要があります。次の場所から AIR をダウンロードできます。

➤ <http://get.adobe.com/air>

また、AIR インストーラー パッケージでインストールされていない AIR アプリケーションを実行するには、AIR Debug Launcher が必要です。これは、次の場所からダウンロードできる AIR SDK に含まれています。

➤ [http://www.adobe.com/go/air\\_sdk](http://www.adobe.com/go/air_sdk)

## Silverlight アプリケーション テスト

Silverlight アプリケーションをテストするには、Silverlight 4 (v. 4.0.50826 以降) または Silverlight 5 がインストールされている必要があります。次の場所から最新バージョンの Silverlight をダウンロードできます。

➤ <http://www.microsoft.com/getsilverlight>

## モバイル Web テスト

モバイル Web アプリケーションをテストするには、Google Chrome 65 がインストールされている必要があります。

## WCF サービス テスト

WCF サービスをテストするには、Microsoft .NET Framework 3.5 または 4.0 が必要です。

## モバイル テスト

### Android テスト

- Android アプリケーションをテストするには、コンピューターに以下のソフトウェアがインストールされている必要があります。
  - Java SE 実行環境 (JRE) または Java SE 開発キット (JDK) ver. 6 - 8。

**注意:** Java 実行環境 (JRE) または Java 開発キット (JDK) ver. 9 または 10 を使用した Android アプリケーションのテストは現在サポートされていません。

- Android SDK ツール。次の場所から入手できます。

- <http://developer.android.com/sdk/index.html>

- Android デバイスまたはエミュレーターは、少なくとも 512 MB のメモリが必要です。テストするデバイスの CPU および画面解像度に関する特定の要件はありません。
- 物理デバイスを使用する場合は、USB ケーブルを使用してコンピューターに接続する必要があります。

## iOS テスト

- iTunes の最新バージョンがコンピューターにインストールされている必要があります。次の場所からダウンロードできます。

- <http://www.apple.com/itunes>

- iOS デバイスは、USB ケーブルを使用してコンピューターに接続する必要があります。

## ユーザー権限

### TestComplete のインストール

TestComplete のインストール、変更、修復、アンインストールには、管理者権限が必要です。対象コンピューターには Administrator または Administrators グループのメンバーとしてログインしなければなりません。

ネットワークから TestComplete をインストールする場合はその共有環境の読み取り/実行権限を持つドメインアカウントでログインする必要があります。

### TestComplete の使用

Windows Vista、Windows 7、およびそれ以降の Windows バージョンでは、TestComplete の一部の機能の使用に管理者権限が必要です。詳細については、TestComplete ヘルプの「*Using TestComplete With Administrator Privileges*」を参照してください。

管理者権限のないアカウントでの TestComplete の使用については、TestComplete ヘルプの「*Working With TestComplete Under a User Account*」を参照してください。

## Android アプリケーション テストの準備

TestComplete で Android アプリケーションをテストするには、モバイル テストの作成と実行を行うすべてのコンピューターに Java 実行環境と Android SDK をインストールする必要があります。

## Java JRE または JDK のインストール

Java JRE または JDK バージョン 6 - 8 をインストールする必要があります。次の場所からダウンロードできます。

- [http://java.com/en/download/windows\\_manual.jsp](http://java.com/en/download/windows_manual.jsp)

64 ビット版の Windows では、64 ビットまたは 32 ビットの Java バージョンをインストールできます。一部の Android SDK パッケージは 32 ビットの Java バージョンでのみ動作するため、64 ビットの Java バージョンを使用する必要がない場合は、32 ビットの Java バージョンをインストールすることを推奨します。

## Android SDK のダウンロードとインストール

Android SDK の最新バージョンは次の場所からダウンロードできます。

- <https://developer.android.com/sdk/index.html>

このサイトでは、いくつかの SDK パッケージが提供されています。

- **Android Development Tools バンドル (デフォルトのダウンロード)**

Android アプリケーションの開発に使用される SDK と Eclipse IDE が含まれた .zip ファイルです。 .zip ファイルをダウンロードして、コンピューター上のフォルダーに展開します。

TestComplete のインストール時に Android SDK のパスを指定するように求められたら、`<ADT bundle>\SDK` フォルダーを指定します。

- **SDK ツール**

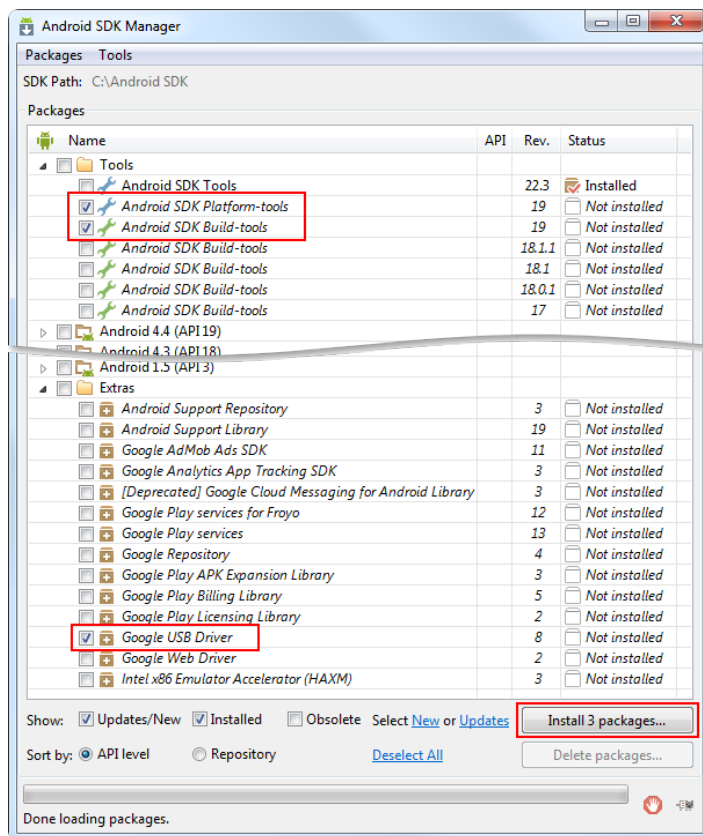
Eclipse IDE が不要な場合は、SDK のみダウンロードし、インストールすることができます。

**注意:** コンピューターに Java JRE または JDK がすでにインストールされていなければなりません。

SDK ファイルをダウンロードするには、次の操作を行います。

1. 次の SDK ダウンロード ページにアクセスします。
  - <https://developer.android.com/sdk/index.html>そして、**Download for Other Platforms** セクションを展開します。
2. **SDK Tools** セクションから `installer_rXX.X-windows.exe` ファイルまたは `android-sdk_rXX.X-windows.zip` ファイルをダウンロードします。
3. SDK をインストールして、Android SDK Manager を実行します。
  - .exe 形式のインストール パッケージをダウンロードした場合は、起動してウィザードの指示に従います。インストール ウィザードの最後のページで、**Start SDK Manager** を選択します。インストール ウィザードを閉じると、Android SDK Manager が起動します。
  - または -
  - .zip 形式のパッケージをダウンロードした場合は、コンピューター上のフォルダーに展開します。そして、`<Android SDK>\SDK Manager.exe` を起動します。
4. SDK Manager で次の項目を選択します。

- Android SDK Platform-tools
- Android SDK Build-tools
- Google USB Driver (<http://developer.android.com/sdk/win-usb.html> にリストされているデバイスでテストを実行する場合)。
- Android エミュレーターを使用してテストする場合は、次の項目を選択します。
  - Intel x86 Atom System Image for Android 4.0.3 (API 15) 以降
  - Intel x86 Emulator Accelerator (HAXM)



5. [Install packages] をクリックし、ライセンス許諾契約に同意して、インストールを続行します。
6. SDK Manager を閉じます。

## TestComplete のインストール パッケージの入手

### 評価版パッケージ

次の SmartBear の Web サイトで評価版のリクエストを送信後、TestComplete 評価版パッケージのダウンロードが始まります。

➤ <http://smartbear.com/product/testcomplete/free-trial/>

ダウンロード後、ファイル名を変更しないでください。

**注意:** 評価版パッケージには、商用版パッケージに含まれるすべてのモジュールが含まれています。購入後、商用版パッケージをダウンロードし、インストールする必要はありません。TestComplete 評価版で商用版ライセンスをアクティベートするだけです。

## 商用版パッケージ

TestComplete インストール パッケージは、SmartBear の Web サイトの My SmartBear セクションから入手できます。

- ブラウザーで <https://my.smartbear.com> を開きます。
- メール アドレス、セキュリティ ID、パスワードを対応するテキスト ボックスに入力し、**[Login]** をクリックします。

これらの情報は、TestComplete 購入時に SmartBear からお客様が指定されたメールアドレスに送られます。このメールを受け取っていない場合、あるいは紛失した場合は、<https://my.smartbear.com> ページで **[Resend my login info]** をクリックしてください。

- 次に、**[My Products]** でダウンロードする TestComplete のバージョンをクリックします。バージョンの詳細が記載されたページが開きます。
- 次に、**[License Details]** セクションに表示されるライセンスの種類とライセンス キーを作成します。この情報は、TestComplete でライセンスのアクティベート手続きを行う際に必要です (21 ページの「TestComplete のライセンス」を参照してください)。
- **[Downloads]** セクションのリンクをクリックしてダウンロードを開始します。
- ファイルのダウンロードのダイアログで **[Save]** をクリックし、TestComplete インストール パッケージの保存先を指定します。

TestComplete のフローティング ライセンスを使用する場合は、ライセンス マネージャー (License Manager) のインストール パッケージもダウンロードする必要があります。ライセンス マネージャーは、社内でフローティング ライセンス サーバーとして使用されているコンピューターにインストールする必要があります。フローティング ライセンスの詳細は、21 ページの「TestComplete のライセンス」を参照してください。



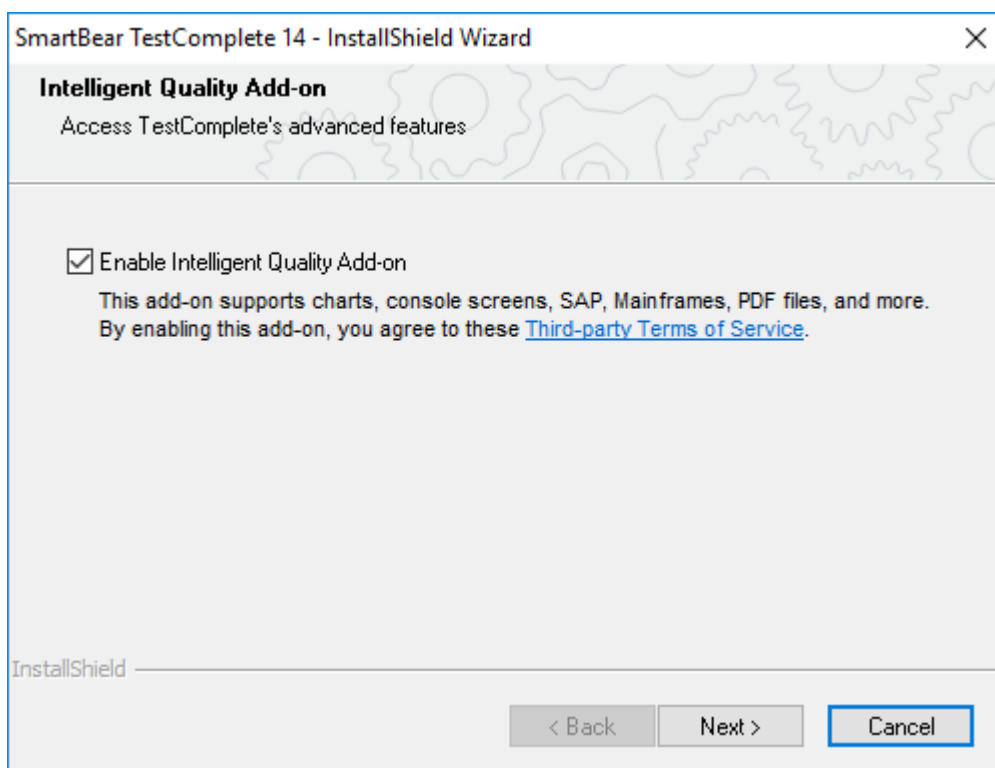
## TestComplete のインストール

TestComplete をインストールする前に:

1. ライセンス許諾契約をお読みください。TestComplete をインストールすることにより、この契約書に同意したことになります。
  - ▶ <https://smartbear.com/terms-of-use/>
2. 5 ページの「インストールの前に」を参照して、コンピューターがハードウェア要件とソフトウェア要件を満たしていることを確認します。

TestComplete をインストールするには:

1. TestComplete を終了します。また、Web ブラウザーや Microsoft Visual Studio、テストアプリケーションなど TestComplete のファイルを使用している可能性があるすべてのアプリケーションを終了します。
2. Windows エクスプローラーで TestComplete のインストール パッケージをダブルクリックします。インストール ウィザードが開始します。
3. Intelligent Quality アドオンを有効にするには、次のページでリンクをクリックして、サードパーティの使用許諾契約をお読みください。ライセンス条項に同意する場合は、**[Intelligent Quality Add-on]** チェックボックスを選択したまま、**[Next]** をクリックします。

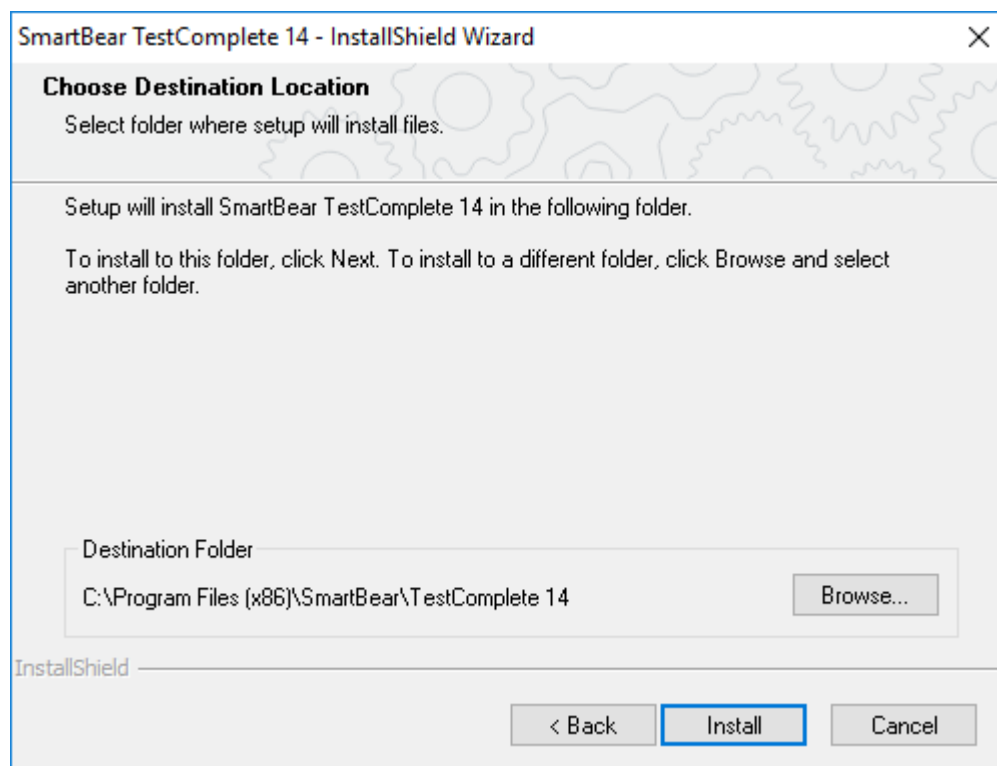


- !** Intelligent Quality アドオンは、別途有効なライセンス必要になります。アドオンのライセンスを既にお持ちの場合は、インストールが完了した後で、ライセンスを有効にすることができます。アドオンのライセンスをお持ちでない場合は、アドオンを購入して有効にする必要があります。アドオンの価格および購入に関しては、弊社までお問い合わせください。

サードパーティの使用条件に同意しない場合、または**アドオンを使用する予定がない場合は**、**[Intelligent Quality Add-on]** チェックボックスをオフにして、**[Next]** をクリックします。

**注意:** TestComplete のインストール時に Intelligent Quality アドオンをインストールしない場合、後で **[File] - [Install Extensions]** ダイアログからインストールできます。

4. 次のページで、TestComplete をインストールするフォルダーを選択します。



**注意:** Windows ストア アプリケーションおよび Microsoft Edge で Web ページをテストするには、TestComplete を <Program Files> (または 64 ビット版の Windows の場合は <Program Files (x86)>) フォルダー以下のサブフォルダーにインストールする必要があります。TestComplete を別のフォルダーにインストールする場合、ウィザードが警告します。

5. **[Install]** をクリックしてインストールを開始します。通常、ファイルのコピーと環境設定にはあまり時間がかかりません。

**注意:** 指定したインストール フォルダーにファイルが存在する場合、ウィザードはそれらを上書きします。その場合、警告メッセージが表示され、続行するための確認を求められます。

6. インストールが完了したら、TestComplete のライセンスをアクティベートする必要があります。
- SmartBear の Web サイトからダウンロードした評価版パッケージを使用して TestComplete をインストールした場合は、TestComplete の **[Welcome]** ダイアログが表示され、ライセンスのアクティベートを求められます。**[Start a 30-Day Trial]** をクリックして、TestComplete

が評価版ライセンスをアクティベートするまで待ちます。アクティベート後、TestComplete ウィンドウが表示されます。

**注意:** 評価を始めるコンピューターがインターネットに接続されていない場合、または SmartBear ライセンシング Web サイト (<https://ls1.smartbear.com> または <https://ls2.smartbear.com>、ポート 443) に接続できない場合、TestComplete は、自動的に評価用ライセンスをアクティベートできません。手動によりアクティベートする必要があります。詳細は、25 ページの「*手動アクティベート*」を参照してください。

- My SmartBear ポータル (<https://my.smartbear.com>) からインストール パッケージをダウンロードした場合、TestComplete はアクティブなライセンスを探します。

コンピューター上に以前のバージョンの Node-Locked (ノードロック) ライセンスが見つかった場合、TestComplete は自動的に SmartBear の Web サイトに接続して、新しいライセンスキーを取得し、アクティベートします (これは、たとえば、保守が有効なライセンスをお持ちの場合に可能です)。

コンピューター上にアクティベート済みのライセンスが見つからなかった場合、TestComplete はライセンスのアクティベートを促すダイアログを表示します。

アクティベート手順の詳細は、21 ページの「*TestComplete のライセンス*」を参照してください。

## 評価版からのアップグレード

TestComplete の評価版にはインストール後 30 日間使用できる TestComplete の評価版ライセンスが含まれています。

TestComplete の評価版は、この期間中または期間後に正式ライセンスのアクティベート手続きを行うことにより、製品版にアップグレードできます。

**注意:** 評価版の TestComplete をアンインストールして、Web サイト (<https://my.smartbear.com>) の My SmartBear セクションから TestComplete のインストール ファイルを入手して再インストールしなおす必要はありません。商用版ライセンスをアクティベートするだけです。手順は、21 ページの「TestComplete のライセンス」を参照してください。

## TestComplete のライセンス

TestComplete を使用する前に、ライセンスをアクティベートする必要があります。アクティベートは必須で、商用版ライセンスと評価版ライセンスのどちらでも実行する必要があります。

### TestComplete のライセンスについて

TestComplete には、2 種類のライセンスが用意されています。

- *Node-Locked* (ノードロック) ライセンスは、TestComplete がインストールされたコンピューターに固定され、ライセンスが登録されているシングル ユーザーのみに使用が許可されます。

Node-Locked (ノードロック) ライセンスは仮想マシンでは使用できません

- *Floating User* (フローティング ユーザー) ライセンスは、同一ネットワーク内のユーザー グループで共有され、同時に任意の数のユーザーが TestComplete を使用できます。同時使用ユーザー数は、ライセンスで指定された数を超えることはできません。

ネットワーク内のコンピューター上で Floating User (フローティング ユーザー) ライセンスをアクティベートします。このコンピューターは、License Manager PC となり、ネットワーク上の TestComplete ワークステーションからのライセンスリクエストを処理します。Floating User (フローティング ユーザー) ライセンスを TestComplete ワークステーションでアクティベートする必要はありません。

評価版ライセンスは、Node-Locked (ノードロック) ライセンスです。Node-Locked (ノードロック) ライセンスに適用される条件はすべて評価版ライセンスにも適用されます。

評価版ライセンスのデータは、SmartBear の Web サイトからダウンロードした評価版インストール パッケージに組み込まれています。商用版ライセンスのデータは、Web サイトの My SmartBear セクションの (<https://my.smartbear.com>) TestComplete 14 製品ページにあります。

TestComplete のライセンスの詳細は、TestComplete ヘルプの「*Licensing*」セクションを参照してください。

### TestComplete 評価版ライセンスのアクティベート

1. TestComplete 評価版パッケージをダウンロードします。SmartBear の Web サイトで Web フォームを入力すると、自動的にダウンロードが開始されます。また、製品のリクエスト後に SmartBear から受け取ったメールにもダウンロードリンクが含まれています。
2. ダウンロードしたパッケージを実行して、コンピューターに TestComplete をインストールします。インストール手順の詳細は、17 ページの「*TestComplete のインストール*」を参照してください。
3. インストール後、TestComplete は **[Welcome]** ダイアログを表示します。**[Start a 30-Day Trial]** をクリックします。TestComplete は、SmartBear Web サイトに接続して、アクティベーション データをダ

ダウンロードし、コンピューターに適用します。処理が完了すると、TestComplete ウィンドウが表示されます。

エラーが発生した場合、TestComplete はエラーメッセージを表示します。画面の指示に従ってください。

インターネットに接続されていないコンピューターに TestComplete をインストールして、アクティベートすることもできます。その場合、手動で SmartBear ライセンス サーバーとデータを交換する必要があります。

1. 上記の手順に従って、TestComplete をダウンロードし、インストールします。
2. **[Welcome]** ダイアログで評価版の開始を選択します。
3. アクティベートに失敗するまで待ちます。TestComplete は、エラーメッセージを表示し、オフライン アクティベーションの使用を促します。オフライン アクティベーション モードを選択し、アクティベーション ウィザードの指示に従います。詳細は、25 ページの「*手動アクティベート*」を参照してください。

## 商用版 Node-Locked (ノードロック) ライセンスのアクティベート

TestComplete の Node-Locked (ノードロック) ライセンスの使用には、次の要件があります。

- 物理コンピューターに TestComplete をインストールして、ライセンスをアクティベートします。
- 自動アクティベート (推奨) を使用する場合は、コンピューターがインターネットに接続されていることを確認してください。
- TestComplete Platform とモジュール (Desktop、Web、Mobile) のライセンス キーが別々に発行されている場合は、Platform のライセンス キーをアクティベート後に、各モジュールのライセンス キーをアクティベートしてください。  
※ Platform とモジュールのライセンス キーが統合されている場合は、そのライセンス キーのみをアクティベートしてください。

Node-Locked (ノードロック) ライセンスを TestComplete でアクティベートするには、次の操作を行います。

- TestComplete を起動します。ローカル コンピューターおよびネットワーク内でアクティベートするライセンスを検索します。
- コンピューターに TestComplete の以前のバージョンの Node-Locked (ノードロック) ライセンスがある場合、TestComplete は SmartBear Web サイトに接続して、そのライセンスで利用可能なアップデートを確認します。  
アップデートが利用可能な場合 (これは、たとえば、保守が有効なライセンスをお持ちの場合に可能です)、TestComplete は自動的にライセンスを更新し、ライセンスのアクティベートを促すメッセージ ボックスを表示します。  
メッセージ ボックスで **[Activate on this PC]** をクリックします。TestComplete は、自動的にライセンスをアクティベートします。
- TestComplete はアクティベートするライセンスを検出できない場合、メッセージ ボックスにその旨表示します。

メッセージ ボックスで **[Activate]** をクリックします。

これにより **[License Management]** ウィザードが起動します。

- ウィザードの最初のページで、新しいライセンスをアクティベートするか、既存のライセンスのアクティベートを解除するかを選択します。

コンピューターがインターネットに接続されていて、SmartBear ライセンシング Web サイト (<https://ls1.smartbear.com> または <https://ls2.smartbear.com>、ポート 443) にアクセスできる場合は、ウィザードが自動アクティベート モードを選択しアクティベートに必要なユーザー名、会社名、email、ライセンスキー情報を入力するページを表示します。TestComplete が SmartBear の Web サイトに接続して、ライセンスをアクティベートします。

コンピューターがインターネットに接続されていない場合、または SmartBear ライセンシング Web サイトにアクセスできない場合は、手動によるアクティベートが必要になります。

詳細は、「自動アクティベート」(24 ページ)と「手動アクティベート」(25 ページ)を参照してください。

## Floating User (フローティング ユーザー) ライセンスのアクティベート

TestComplete の Floating User (フローティング ユーザー) ライセンスの使用には、次の要件があります。

- ネットワーク上の 1 台のコンピューターに特別な License Manager ユーティリティをインストールし、このコンピューターでライセンスをアクティベートするためにユーティリティを使用します。このコンピューターは、License Manager PC となり、ライセンスの利用を管理します。

**注意:** Floating User (フローティング ユーザー) ライセンスをアクティベートするために、License Manager PC に TestComplete をインストールすることもできます。しかし、License Manager PC 上でテストを実行しない場合は、スタンドアロンの License Manager ユーティリティを使用することを推奨します。

- TestComplete を実行するワークステーションで Floating User (フローティング ユーザー) ライセンスをアクティベートする必要はありません。これらのワークステーションで TestComplete を起動すると、アクティブな License Manager を自動的に検索し、実行するための許可をリクエストします。
- TestComplete を実行するワークステーションは、ライセンスをチェックするために License Manager PC にネットワーク接続されていなければなりません。
- TestComplete Platform とモジュール (Desktop、Web、Mobile) のライセンス キーが別々に発行されている場合は、Platform のライセンス キーをアクティベート後に、各モジュールのライセンス キーをアクティベートしてください。

※ Platform とモジュールのライセンス キーが統合されている場合は、そのライセンス キーのみをアクティベートしてください。

## License Manager PC の選択

License Manager のフットプリントは小さいため、実行には特定のハードウェアやソフトウェアは必要ありません。License Manager をインストール/実行するコンピューターのシステム要件は以下のとおりです。

- 物理マシンであること (仮想マシンではないこと)。
- ローカル ネットワーク接続があること。
- ワークステーションで TestComplete を実行する際に、常に稼動していること。

一般に License Manager はネットワーク内の専用のサーバーにインストールされます。ただし、必要に応じて TestComplete がインストールされたコンピューターにインストールすることも可能です。

## License Manager PC の設定

License Manager ユーティリティをインストールし、Floating User (フローティング ユーザー) ライセンスをアクティベートするには:

1. Web サイトの My SmartBear セクションから License Manager インストール ファイルをダウンロードします。詳細は、13 ページの「*TestComplete* のインストール パッケージの入手」を参照してください。
2. License Manager PC となるネットワーク コンピューターを選択します。
3. License Manager PC に License Manager ユーティリティをインストールします。
4. デスクトップの [スタート] ボタン(または Windows ボタン) をクリックし、**[すべてのプログラム] - [SmartBear] - [License Manager] - [Activate or Deactivate License]** を選択します。これにより **[License Management]** ウィザードが起動します。
5. ウィザードの最初のページで、新しいライセンスをアクティベートするか、既存のライセンスのアクティベートを解除するかを選択します。
6. 次のページで、アクティベートの方法を選択します: automatic (自動) または manual (手動)。簡単な自動アクティベートを選択することを推奨します。自動アクティベートは、コンピューターがインターネットに接続されている必要があります。コンピューターがインターネットに接続されていない場合は、手動アクティベートを選択してください。

選択したアクティベートの方法によって次の操作が異なります。詳細は、以下の「*自動アクティベート*」と「*手動アクティベート*」を参照してください。

Floating User (フローティング ユーザー) ライセンスが License Manager PC でアクティベートされると、ネットワーク上のほかのコンピューターでこのライセンスを使用して TestComplete を使用できます。

## 自動アクティベート

コンピューターがインターネットに接続されており、SmartBear ライセンシング Web サイト (<https://ls1.smartbear.com> または <https://ls2.smartbear.com>、ポート 443) にアクセスできる場合、**[License Management]** ウィザードは、自動アクティベートを使用します。ライセンスをアクティベートするには、次のステップに従ってください。



- ウィザードで、アクティベート情報を指定します: ユーザー名、会社名、メール アドレスおよびライセンスキー。

ライセンスキーは、TestComplete ライセンスをリクエストした後に送付されるメールに記載されています。あるいは、Web ページの My SmartBear セクションの TestComplete 14 製品ページで確認できます。

➤ <https://my.smartbear.com>

ユーザー名、会社名、メール アドレスには、使用者のデータまたはライセンス保管者のデータを入力することができます。使用者のデータを入力することを推奨します。

アクティベート用の情報を入力したら、**[Next]** をクリックします。

- ウィザード ページで、プロキシ認証設定を指定できます。これは、プロキシ経由で Web に接続し、プロキシが接続の際にユーザー認証を要求する場合に必要です。ほとんどのプロキシは認証を要求しないため、通常何も入力する必要はありません。プロキシのタイプが不明な場合や指定する証明書がわからない場合は、システム管理者に確認してください。
- プロキシ設定を指定した後で、**[Activate]** をクリックします。ウィザードがアクティベート要求を SmartBear Web サーバーに送信し、アクティベート データを受信して、コンピューター上のライセンスをアクティベートします。
- ライセンスが正常にアクティベートされると、ウィザードは最後のページを表示します。そうでない場合は、エラー メッセージと再度アクティベートするように促すメッセージが表示されます。

**注意:** ライセンスをアクティベートするとき、ウィザードは、ポート 443 を介して、ls1.smartbear.com および ls2.smartbear.com の SmartBear ライセンス認証サイトと接続を確立します。プロキシサーバー、ファイアウォール、ウイルス対策ソフトウェア等を使用している場合は、この Web サイトへのアクセスが許可されないことがあります。この場合、システム管理者に問い合わせてプロキシサーバー、ファイアウォール、ウイルス対策ソフトウェア等で TestComplete が許可されるようにしてください。

TestComplete ライセンスのアクティベートで問題が発生した場合は、TestComplete のパッケージに含まれている『TestComplete 14 ライセンス ガイド』で解決策を検索してください。あるいは、エクセルソフト株式会社までご連絡ください (42 ページの「SmartBear Software へのお問い合わせ」を参照)。

## 手動アクティベート

コンピューターがインターネットに接続できない場合、または SmartBear ライセンシング Web サイトにアクセスできない場合は、手動アクティベートを使用します。このアクティベート方法は、手動で SmartBear Web サーバーとデータを交換します。そのため、Test Complete をインストールしたコンピューターと SmartBear Web サーバーを仲介する、インターネットに接続された別のコンピューターが必要になります。データを Test Complete をインストールしたコンピューターから仲介するコンピューターに送り、そのコンピューターから Web サーバーに送ります。また受信も同様の方法で行います。

ライセンスをアクティベートするには:

- **[License Management]** ウィザードは SmartBear ライセンシング Web サイトへのアクセスに失敗すると、手動でライセンスをアクティベートするように促されます。オフライン (手動) アクティベーションを選択します。
- ウィザードで手動アクティベートの手順が表示されます。**[Next]** をクリックします。
- ライセンスをアクティベートするには、コンピューターの情報が必要になります。ウィザードは、自動的にこの情報を収集して、.c2v ファイルに保存します。ファイル名はウィザードに表示されます。

評価版をアクティベートする場合は、評価版ライセンス キーもウィザードに表示されます。記憶するか、メモしておいてください。

**[Next]** をクリックします。

- 次に、.c2v ファイルをインターネットに接続された仲介するコンピューターにコピーします。
- ファイルをコピーした後で、仲介するコンピューター上で、次の URL をブラウザで開きます。

➤ <https://my.smartbear.com/manual-license-activation/>

ライセンスをアクティベートするための Web ページが開きます。Web ページで、ライセンス キーと .c2v ファイルの名前を指定します。

ライセンス キーは、TestComplete ライセンスをリクエストした後に送付されるメールに記載されています。あるいは、Web ページの My SmartBear セクションの TestComplete 14 製品ページで確認できます (<https://my.smartbear.com>)。

ライセンス キーとファイル名を指定した後で、**[Send File]** をクリックします。これで、ファイルが SmartBear Web サーバーにアップロードされます。ファイルの転送には時間がかかることがあります。

- Web サーバーは、ファイルを処理して Test Complete をインストールしたコンピューター用のアクティベート データを生成します。そして、このアクティベート用データ (ファイル拡張子は、.v2c) のダウンロード用リンクを表示します。このファイルを仲介するコンピューターにダウンロードします。
- 仲介するコンピューターから .v2c ファイルを Test Complete をインストールした PC にコピーします。そして、Test Complete をインストールしたコンピューター上で、**[License Activation]** ウィザードの **[Next]** をクリックします。エディット ボックスを含むウィザードの次のページが表示されます。
- エディット ボックスで .v2c ファイルを指定して、**[Activate]** をクリックします。ウィザードは、コンピューターにアクティベート用データを保存し、ライセンスをアクティベートします。

ウィザードは、アクティベートが正常に完了したことを表示するか、問題が発生した場合は、そのエラーを表示します。

## TestExecute ライセンスのインストールとアクティベート

TestExecute は、TestComplete がインストールされていないコンピュータでテストを実行することができるソース フレンドリーな製品です。TestExecute は、スタンドアロン製品として購入できます。

TestExecute のアクティベート方法は、評価版か製品版かによって異なります。TestExecute のインストールとアクティベートに関する詳細は、『TestExecute 14 インストール ガイド』および TestExecute Help の「*Licensing*」セクションを参照してください。以下は、インストールとアクティベートの要点です。

- TestExecute は、**スタンドアロン製品**として購入し、ライセンスを受け取ることができます。
- TestExecute を購入すると、そのライセンス キーが送付されます。Web サイトの My SmartBear セクションから TestExecute をダウンロードし、このライセンス キーを使ってアクティベートします (<https://my.smartbear.com>)。詳細は、『TestExecute 14 インストール ガイド』および TestExecute Help の「*Licensing*」セクションを参照してください。

## TestComplete のメンテナンスとアンインストール

TestComplete のインストール プログラムには、インストールされた TestComplete 機能の追加や削除、または TestComplete インストールの修復などのメンテナンス タスクが含まれています。[コントロール パネル] からメンテナンス モードでインストール プログラムを実行できます。

### TestComplete インストールの変更

TestComplete インストール プログラムでは、必要に応じて TestComplete の機能のインストール/アンインストールを行えます。TestComplete のインストールを変更する前に13 ページの「ユーザー権限」で説明されているようにユーザー アカウントに管理者権限があることを確認してください。

TestComplete インストールを変更するには:

- TestComplete およびテスト アプリケーション、Web ブラウザー、Microsoft Visual Studio など TestComplete がサポートしている、あるいは統合されるその他のアプリケーションをすべて閉じます。
- Windows Vista、Windows 7、またはそれ以降のオペレーティング システムの場合、[コントロール パネル] - [プログラムと機能] アプレットを開きます。

Windows XP、Windows Server 2003 の場合、[コントロール パネル] - [プログラムの追加と削除] アプレットを開きます。

- リストで **SmartBear TestComplete 14** を選択し、[変更] をクリックします。TestComplete のインストール ウィザードが表示されます。
- [Welcome] 画面で [Modify] を選択し、[Next] をクリックして処理を続けます。
- 次に、[Select Features] 画面で、現在インストールされている TestComplete 機能を確認します。追加する機能をオンにし、削除する機能をオフにします。[Next] をクリックして処理を続けます。
- インストールの変更処理が完了するまで待つてから、[Modify Complete] 画面の [Finish] をクリックします。

### TestComplete のアップデート

最新の向上機能を活用できるように定期的に TestComplete を最新版へアップグレードすることを推奨します。

## TestComplete アップデートの確認

デフォルトでは、TestComplete の起動時に自動でアップデートが確認されます。自動アップデート確認機能が有効なことを確認、あるいは動作を変更するには、次の操作を行います。

- TestComplete のメインメニューで **[Tools] - [Options]** をクリックします。
- 次に、**[General] - [Show Again Flags]** カテゴリをクリックします。
- 起動時のオプションでアップデートの確認を有効または無効にします。

また、TestComplete のメインメニューから **[Help] - [Check for Updates]** をクリックして、アップデートを確認することもできます。

TestComplete の新しいバージョンが利用可能な場合、このバージョンのリリース ノートの表示とインストールパッケージのダウンロードが可能な SmartBear の Web サイトへのリンクを含むメッセージボックスが表示されます。

## アップデートのインストール

アップグレード処理は、アップグレード対象の TestComplete バージョンが現バージョンのアップデートかまたは新しいメジャーバージョンかにより異なります。

- 現バージョンのアップデートをインストールする場合は、既存のインストールに上書きしてインストールできます。インストールプログラムにより、既存の TestComplete インストールが検出され、必要なファイルが更新されます。この場合、カスタマイズされた TestComplete の設定とライセンス情報は維持されます。
- 新しいメジャーバージョンにアップグレードするには、既存のインストールをアンインストールしてから新しいバージョンをインストールする必要があります。アンインストールの方法については、30 ページの「*TestComplete* のアンインストール」を参照してください。

新しい TestComplete バージョンのインストール方法については、17 ページの「*TestComplete* のインストール」を参照してください。

## TestComplete の修復

TestComplete インストールプログラムでは、破損や不注意で削除してしまった場合に修復が可能です。修復処理により、TestComplete インストール、TestComplete 固有のレジストリキー、ファイルの関連付けなどからの破損ファイルや削除されたファイルが復元されます。

TestComplete インストールの修復を開始する前に、次の事項を確認してください。

- TestComplete を修復するには、13 ページの「**ユーザー権限**」の説明にあるようにユーザー アカウントに管理者権限が必要です。
- 修復処理では、TestComplete の設定がデフォルトにリセットされます。カスタマイズ設定がある場合は、ファイルにエクスポートして、修復後に復元できるようにしてください。詳細は、31 ページの「*TestComplete* 設定のインポートとエクスポート」を参照してください。

TestComplete を修復するには:

- TestComplete が実行中の場合はプログラムを終了します。また、Microsoft Visual Studio、Web ブラウザー、テスト アプリケーションなど TestComplete がサポートしている、あるいは統合されるその他のアプリケーションが開いている場合は閉じてください。
- Windows Vista、Windows 7、またはそれ以降のオペレーティング システムの場合、**[コントロール パネル] - [プログラムと機能]** アプレットを開きます。  
Windows XP、Windows Server 2003 の場合、**[コントロール パネル] - [プログラムの追加と削除]** アプレットを開きます。
- リストで **SmartBear TestComplete 14** を選択し、**[変更]** をクリックします。TestComplete のインストール ウィザードが表示されます。
- **[Welcome]** 画面で **[Repair]** を選択し、**[Next]** をクリックして処理を続けます。
- 処理を続けるかどうかを確認するダイアログが表示されたら、**[Yes]** をクリックします。
- 修復処理が完了するまで待つてから、**[Repair Complete]** 画面の **[Finish]** をクリックします。

## TestComplete のアンインストール

TestComplete をアンインストールする前に、13 ページの「ユーザー権限」の説明にあるようにユーザー アカウントに必要な権限があることを確認してください。

また、TestComplete を別のコンピューターに移行する場合には、次の事項を考慮してください。

- Node-Locked User (ノードロック ユーザー) ライセンスの場合、TestComplete をアンインストールする前にライセンスのアクティベートを解除します。詳細に関しては、TestComplete ヘルプの「*Licensing*」セクションで「*Deactivating Licenses*」を参照してください。ライセンスのアクティベート解除については、SmartBear 営業窓口までお問い合わせください。連絡先情報は、42 ページの「*SmartBear Software へのお問い合わせ*」を参照してください。
- TestComplete のカスタマイズ設定をファイルにエクスポートしておく、設定を新しいインストールに移行できます。詳細は、31 ページの「*TestComplete 設定のインポートとエクスポート*」を参照してください。

TestComplete をアンインストールするには:

- TestComplete が実行中の場合はプログラムを終了します。また、Microsoft Visual Studio、Web ブラウザー、テスト アプリケーションなど TestComplete がサポートしている、あるいは統合されるその他のアプリケーションが開いている場合は閉じてください。  
**注意:** アプリケーションから TestComplete のヘルパー モジュールをアンロードするには時間がかかります。TestComplete 終了後、数分待つてからアンインストールを開始することを推奨します。
- Windows Vista、Windows 7、またはそれ以降のオペレーティング システムの場合、**[コントロール パネル] - [プログラムと機能]** ウィンドウを開きます。

Windows XP、Windows Server 2003 の場合、**[コントロール パネル] - [プログラムの追加と削除]** アプレットを開きます。

- リストで **SmartBear TestComplete 14** を選択し、**[削除]** (または同様の機能) をクリックします。
- TestComplete のアンインストール処理を続けるかどうかを確認するダイアログが表示されたら、**[Yes]** をクリックします。
- 画面の説明に従って、アンインストール処理を完了します。

**注意:** TestComplete は、NET アプリケーションからモジュールをアンロードできません。TestComplete モジュールがロードされたままであることを検出すると、インストールウィザードは **[File in Use]** ダイアログと使用中のプロセスのリストを表示します。それらのプロセスを終了するか、実行を継続するか (後でコンピューターの再起動が必要になります) 選択できます。

- **[Uninstall Complete]** 画面で **[Finish]** をクリックします。

TestComplete をアンインストールする際、作成したテスト プロジェクトは削除されません。TestComplete のプロジェクトフォルダーを削除することにより、手動で削除できます。デフォルトフォルダーの場所は次のとおりです。

- `<SystemDrive>:\Users\<UserName>\Documents\TestComplete 14 Samples` (Windows Vista、Windows 7 およびそれ以降のオペレーティング システムの場合)
- `<SystemDrive>:\Documents and Settings\<UserName>\My Documents\TestComplete 14 Samples` (Windows XP、Windows Server 2003 の場合)

## TestComplete 設定のインポートとエクスポート

TestComplete の全設定あるいは一部をファイルにエクスポートして、いつでもインポートすることが可能です。これは、TestComplete の古いバージョンからの移行や、TestComplete を別のコンピューターに移動、または複数の TestComplete インストールに同じ設定を適用する際に役立ちます。また、これにより TestComplete のカスタマイズ設定のバックアップも作成できます。

TestComplete 設定をファイルにエクスポートするには:

- TestComplete のメイン メニューで **[Tools] - [Settings] - [Export Settings]** をクリックします。**[Export Settings]** ダイアログが表示されます。
- 保存する設定カテゴリを選択します。
- **[Settings file name]** ボックスで、設定を保存する .acnfg ファイルの保存先と名前を入力します。保存先を参照するには、省略記号のボタンをクリックします。
- 次に、**[Export]** をクリックして、指定したファイルに設定を保存します。

TestComplete 設定をファイルからインポートするには:

- TestComplete のメインメニューで **[Tools] - [Settings] - [Import Settings]** をクリックします。**[Import Settings]** ダイアログが表示されます。
- この **[Import from file]** リストで、設定が保存されたファイルを指定します。  
リストが空の場合は、**[Browse]** をクリックして、対象の .acnfg ファイルを開きます。
- **[Settings available to import]** で、現在の設定に適用する設定カテゴリを選択します。**[Check All]** ボタンと **[Uncheck All]** ボタンを使用すると、すべての項目をそれぞれ、選択、解除できます。
- **[Import]** をクリックして、指定した設定を適用します。  
ファイルに含まれていない設定やリストで選択されていない設定はそのままです。



## TestComplete のサイレント モードによるインストール

場合によっては、TestComplete をサイレント モードでインストールする必要があるかもしれません。このモードでは、ユーザーの介入なしにインストールが自動的に行われます。たとえば、TestComplete のインストール処理を自動で行う場合や、TestComplete をネットワーク内の複数のコンピューターにインストールする場合に、サイレント モードでインストールします。

次の方法で、TestComplete をサイレント モードでインストールできます。

- InstallShield を使用する
- 特定のコマンドライン引数を使用する

### 2 つの方法の違い

#### InstallShield によるサイレント インストール

- インストールはバックグラウンドで実行されます。ダイアログやメッセージは表示されません。
- インストール応答ファイルが必要です。このファイルには、サイレント インストール中に使用するインストール フォルダーのパスやインストールする機能、およびその他の情報が含まれています。
- インストール応答ファイルを作成するには、「システム要件」にあるハードウェア要件とソフトウェア要件を満たし、サイレント インストールを実行するコンピューターと同じソフトウェア構成のコンピューターが必要です。

そうでない場合、環境の違い (たとえば、Microsoft .NET Framework の有無など) によりインストール可能な機能が異なり、サイレント インストールに失敗することがあります。

#### 特定のコマンドライン引数によるサイレント インストール

- 一部のインストール ウィザード ページが画面に表示されます (ユーザー入力が必要なページは表示されませんが、その他のページが表示されます)。
- コマンドラインを使用して TestComplete をアップデートすることはできません。インストールされている TestComplete のバージョンをアップデートするには、現在インストールされているバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールします。

### 利用規約に同意する

**!** TestComplete をサイレント モードでインストールすることにより、以下を含むすべての使用条件に同意したことになります。

- [smartbear.com/terms-of-use/](http://smartbear.com/terms-of-use/)
- [smartbear.com/legal/third-party-software-license-information/testcomplete/](http://smartbear.com/legal/third-party-software-license-information/testcomplete/)
- [developers.google.com/terms/](http://developers.google.com/terms/)

## 特定のコマンドライン引数を使用して TestComplete のインストール

- !** 特定のコマンドライン引数を使用してインストールを実行するには、管理者権限が必要です。

### サイレント インストールの実行

1. TestComplete インストール パッケージをターゲット コンピューターに展開します。
2. ターゲット コンピューターで、`/z"-silentmode-other_arguments"` コマンドライン引数を使用してインストールを実行します。次に例を示します。

```
<path_to_installation_package>\TestCompleter140_Release.exe  
/z"-silentmode-Desktop-Path:D:\Work\Applications" /clone_wait
```

3. インストール プログラムは、ユーザーの介入なしに TestComplete をインストールします。

### サポートされているコマンドライン引数

次のコマンドライン引数を使用して、TestComplete インストール パッケージを起動し、サイレントモードでインストールできます。

```
<Setup.exe>  
/z"-silentmode[-Desktop][Web][Mobile][IntelligentQuality][remove][-Path:destination_folder]" /clone_wait
```

`/z"-silentmode ..."`

この引数は**必ず**指定する必要があります。インストール プログラムにサイレントモードで実行するように指示します。

ほかの引数はオプションです。

#### *-Desktop*

Desktop モジュールがインストールおよびアクティベートされます。

#### *-Web*

Web モジュールがインストールおよびアクティベートされます。

#### *-Mobile*

Mobile モジュールがインストールおよびアクティベートされます。

#### *-IntelligentQuality*、*-Intelligent Quality*、または *-IQ*

Intelligent Quality モジュールがインストールおよびアクティベートされます。

- ❗ Intelligent Quality アドオンをサイレントモードでインストールすることにより、サードパーティの使用条件に同意したことになります。

➤ [developers.google.com/terms/](https://developers.google.com/terms/)

#### 注意:

- モジュールまたはアドオンが引数パラメーターとして指定されていない場合、モジュールまたはアドオンはインストールされません。

```
<path_to_installation_package>\TestComplete140_Release.exe  
/z"-silentmode-Desktop-Mobile-Path:D:\Work\Applications"
```

Desktop および Mobile モジュールはインストールされますが、Web モジュールと Intelligent Quality アドオンはスキップされます。

```
<path_to_installation_package>\TestComplete140_Release.exe  
/z"-silentmode-Desktop-IntelligentQuality-Path:D:\Work\Applications"
```

Desktop モジュールと Intelligent Quality アドオンがインストールされますが、Web モジュールと Mobile モジュールはスキップされます。

- インストール中にモジュールまたはアドオンが指定されない場合、TestComplete は使用可能なすべてのモジュールをインストールします。

#### *-remove*

このコマンドを指定すると、TestComplete と関連するすべての機能がコンピューターから削除されます。

#### 注意:

- remove* 引数を指定すると、ほかのコマンドライン引数は無視され TestComplete がアンインストールされます。
- TestComplete がインストールされていない場合、*-remove* 引数は無視され、TestComplete がインストールされます。
- TestComplete をアンインストールするには、現在インストールされている TestComplete バージョンのインストール パッケージを使用する必要があります。

#### *-Path:destination\_folder*

このコマンドを指定すると、TestComplete が指定したフォルダーにインストールされます。

**注意:** インストールフォルダーのパスを指定する *-Path* パラメーターは、必ず指定しなければなりません。

#### */clone\_wait*

デフォルトでは、インストール プログラムはインストールが完了するまで待機しません。このパラメーターを使用して、TestComplete のインストールが完了するのを待ちます。

これは、テスト環境で無人モードで TestComplete をインストールして、自動テストをすぐに開始する場合に便利です。

## サイレント インストールの確認

インストール中にエラーが発生した場合、インストール ウィザードは対応するメッセージを画面に表示し、エラーが発生したことを示します。エラー メッセージが表示されない場合、インストールは正常に完了したことを示します。

インストールが正常に完了したかどうかは、インストールの終了コード値からも分かります。0 の場合はインストールが成功したことを示し、その他の値の場合はエラーが発生したことを示します。エラー コードの詳細なリストは、次の Web ページを参照してください。

- [http://helpnet.installshield.com/installshield18helplib/IHelpSetup\\_EXEErrors.htm](http://helpnet.installshield.com/installshield18helplib/IHelpSetup_EXEErrors.htm)

## 既知の制限事項

- TestComplete をアップデート モードでインストールすることはできません。TestComplete をアップデートするには、現在インストールされているバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールします。

これは、オペレーティング システムの **[コントロール パネル]** から手動で行うか、`-remove` コマンドライン引数を使用して行うことができます。

```
<path_to_installation_package>\TestComplete140_Release.exe  
/z"-silentmode-remove"
```

## InstallShield を使用して TestComplete をインストール

InstallShield を使用して TestComplete をサイレント モードでインストールするには、インストールに必要な設定を含むインストール応答ファイルを作成します。そして、インストールするコンピューターに TestComplete のパッケージ ファイルを展開し、作成したインストール応答ファイルを使用してインストールを実行します。

この方法を使用する場合、インストール ウィザードの設定を指定するインストール応答ファイルを作成する必要があります。そして、インストールするコンピューターに TestComplete のインストール ファイルを展開し、コマンドラインで応答ファイルを指定してインストールを実行します。

- ❗ インストール応答ファイルを作成し、サイレント インストールを実行するには、アカウントに管理者権限が必要です。

### 1. サイレント インストール用の応答ファイルの作成

1. ハードウェア要件とソフトウェア要件を満たし、TestComplete がインストールされていないコンピューターを選択します。このコンピューターのソフトウェア構成は、サイレント インストールを実行するコンピューターと同じでなければなりません。
2. TestComplete のインストールを応答記録モードで実行します。

```
<path_to_installation_package>\TestComplete140_Release.exe /r
```

**注意:** パスにスペースが含まれる場合は引用符で囲んでください。

3. 画面の説明に従って、必要な設定で TestComplete をインストールします。  
インストール プログラムは、インストール中に選択された設定をシステムドライブの *Windows* フォルダ以下にある *Setup.iss* ファイルに記録します。
4. *Setup.iss* ファイルを *Windows* フォルダから TestComplete のインストール パッケージがあるフォルダに移動します。

## 2. InstallShield によるサイレント インストールの実行

1. TestComplete インストール パッケージとインストール応答ファイル (*Setup.iss*) をターゲット コンピューターに展開します。
2. ターゲット コンピューターで次のコマンドを実行します。

```
<path_to_installation_package>\TestComplete140_Release.exe /s
```

**注意:** パスにスペースが含まれる場合は引用符で囲んでください。

3. インストール プログラムは、*Setup.iss* ファイルで指定されたオプションを使用して、TestComplete をバックグラウンドでインストールします。ダイアログやオプションの指定を促すメッセージは表示されません。インストールの進捗状況も表示されません。

## 3. サイレント インストールの確認

サイレントモードでは、情報、警告、エラー メッセージは表示されません。インストール プログラムは、*setup.log* ファイルを作成し、インストール状況を書き込みます。ログを検証して、TestComplete が正常にインストールされたかどうかを確認します。

ログ ファイルは、インストール ファイルと同じフォルダにあります。ファイルを開き、*resultCode* 値を確認します。0 の場合はインストールが成功したことを示し、その他の値の場合はエラーが発生したことを示します。エラー コードの詳細なリストは、次の Web ページを参照してください。

- <http://kb.flexerasoftware.com/doc/Helpnet/installshield12helplib/SetupLog.htm>

## トラブルシューティング

### インストールに関する問題

このセクションでは、TestComplete のインストール中に発生する可能性のあるエラーとその解決方法を説明します。ここに説明されていない問題や提示された解決方法で問題を解決できない場合は、SmartBear のサポート窓口までお問い合わせください。連絡先の情報は、42 ページの「*SmartBear Software* へのお問い合わせ」を参照してください。

#### Error: Some installation files are corrupt.Please download a fresh copy... (一部のインストール パスが破損しています。インストール パッケージを再度ダウンロードしてください...)

このメッセージは、TestComplete インストール パッケージが破損している場合に表示されます。この問題は、さまざまな理由により発生します。インストール パッケージをダウンロードし直して、インストールを再度実行してください。

#### Error 1304.Error writing to file tcWPFHelpers.dll. (tcWPFHelpers.dll ファイルの書き込みエラー)

このエラーは、インストール プログラムが TestComplete の WPF Controls Support プラグインの一部である tcWPFHelpers.dll アセンブリを、コンピューターの Global Assembly Cache (GAC) にインストールするのに失敗したときに発生します。次の表は、考えられる原因をまとめたものです。

考えられる原因	解決法
ユーザー アカウントに Global Assembly Cache (GAC) へのファイルの書き込み権限がない。	13 ページの「 <b>ユーザー権限</b> 」で説明されているように、管理者権限のあるアカウントでインストールを実行してください。  TestComplete をインストールするコンピューターでユーザー アカウントに管理者権限がない場合は、システム管理者にお問い合わせください。
.NET Framework インストールが破損している。	メンテナンス モードで .NET Framework インストール プログラムを実行し、 <b>[修復]</b> オプションで .NET Framework インストール プログラムを修復します。  次の操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Vista、Windows 7、またはそれ以降のオペレーティング システムの場合、<b>[コントロール パネル] - [プログラムと機能]</b> アプレットを開きます。</li> </ul>

	<p>Windows XP、Windows Server 2003 の場合、<b>[コントロール パネル] - [プログラムの追加と削除]</b> アプレットを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リストで .NET Framework を選択し、<b>[変更]</b> をクリックします。.NET Framework のセットアップ プログラムが表示されます。</li> <li>• <b>[修復]</b> オプション (または同様のオプション) を選択して、<b>[次へ]</b> をクリックします。</li> <li>• 画面の説明に従って、修復処理を完了します。</li> </ul> <p>複数のバージョンの .NET Framework がインストールされている場合は、すべてのバージョンを修復する必要があります。</p>
--	---

TestComplete の WPF Controls Support プラグインが不要な場合 (たとえば、WPF アプリケーションをテストしないなど) は、インストールから除外します。この場合、TestComplete のインストール時に **[Select Features]** 画面で **[Extensions] - [Open Applications Support] - [WPF Controls Support]** 機能をオフにします。

## Error 1320.The specified path is too long C:\ProgramData\Documents\TestComplete 14 Samples (指定されたパスが長過ぎます)

この問題は、コンピューターに Windows 7、Windows Vista、Windows Server 2008 オペレーティング システムが事前にインストールされている (ネットブックなど) 場合に発生します。これは、**[共有ドキュメント]** フォルダーではなく、存在していないディレクトリを解決する <SystemDrive>:\ProgramData\Documents の無効なジャンクション ポイントが原因です。ジャンクション ポイントの詳細は、MSDN の記事の「ジャンクション ポイント」を参照してください。

➤ <http://msdn.microsoft.com/en-us/library/bb968829.aspx>

ジャンクション ポイントが正しいかどうかを確認するには:

- 管理者権限で、**[コマンド プロンプト]** を管理者として実行します。
  - **[スタート]** をクリックして、**[検索]** ボックスに *cmd.exe* と入力します。
  - 検索結果の *cmd.exe* を右クリックして、**[管理者として実行]** をクリックします。
- 次のコマンドを **[コマンド プロンプト]** に入力して、Enter を押します。

```
dir C:\ProgramData /al
```

(オペレーティング システムが C 以外のドライブにインストールされている場合は、ドライブ名のアルファベットを変更してください。)

- Documents ジャンクション ポイントのパスを確認します。
  - *[C:\Users\Public\Documents]* の場合 (システムドライブが C: と仮定)、ジャンクション ポイントは正しいです。

- 無効なドライブ名、たとえば `[S:\Users\Public\Documents]` などの場合は、ジャンクション ポイントは破損しています。
- ジャンクション ポイントを修正するには、**[コマンド プロンプト]** で次のコマンドを実行します。

```
rd C:\ProgramData\Documents
mklink /j C:\ProgramData\Documents C:\Users\Public\Documents
```

(オペレーティング システムが C 以外のドライブにインストールされている場合は、ドライブ名のアルファベットを変更してください。)

ジャンクション ポイントの修正後、**[Modify]** モードで TestComplete インストール プログラムを実行し、サンプル アプリケーションとテスト プロジェクトをインストールします。詳細は、28 ページの「*TestComplete* インストールの変更」を参照してください。

TestComplete サンプルが不要な場合は、インストールから除外できます。この場合、TestComplete のインストール時に **[Select Features]** 画面で **[Samples]** 機能をオフにします。

また、オペレーティング システムのインストール時にジャンクション ポイントが正しく設定されていない場合は、コンピューターの製造元に問い合わせることをお勧めします。

## Error 1628. Failed to complete installation (インストールを完了できませんでした)

このエラーは、通常 Windows XP 64 ビット版を実行しているコンピューターで発生します。

このエラーは、Windows Installer が TestComplete インストール パッケージが正しく署名されているか確認するのに十分なメモリがないために発生します。

問題を解決するには、Windows Installer が任意のサイズのインストール パッケージを確認できるようにソフトウェア制限ポリシーを設定します。

1. 問題の発生したコンピューターで、**ローカル セキュリティ設定**を実行します。**[スタート] - [ファイル名を指定して実行]** を選択して、`secpol.msc` と入力し、Enter を押します。
2. 左側のセクションで **[セキュリティの設定] - [ソフトウェアの制限のポリシー]** を選択します。
3. ソフトウェアの制限のポリシーが定義されていない場合は、**[ソフトウェアの制限のポリシー]** を右クリックして **[新しいソフトウェアの制限のポリシー]** を選択します。
4. 右側のセクションで、**[強制]** を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。
5. **[強制のプロパティ]** ダイアログの **[ソフトウェアの制限のポリシーの適用ユーザー]** セクションで、**[ローカルの管理者を除くすべてのユーザー]** を選択します。
6. **[OK]** をクリックして変更を保存し、**[強制のプロパティ]** ダイアログを閉じます。
7. 変更を有効にするためにコンピューターを再起動します。
8. TestComplete を再インストールします。

TestComplete をインストールしたら、**[ソフトウェアの制限のポリシーの適用ユーザー]** オプションの値を **[すべてのユーザー]** に戻します。



## ライセンスに関する問題

ライセンスのアクティベート時に発生する一般的な問題の説明については、『*TestComplete 14 Licensing Guide*』を参照してください。

## SmartBear Software へのお問い合わせ

TestComplete のインストールに関する質問、またはインストールやライセンスについての問題に関する質問は、SmartBear サポート窓口までお問い合わせください。質問は、次の Web サイトから送ることができます。

➤ <http://support.smartbear.com/message/?prod=TestComplete>

ライセンスのアクティベート、メンテナンス、アクティベート解除については、SmartBear 営業窓口までお問い合わせください。

- 電話: +1 (617) -684-2600
- Email: [sales@smartbear.com](mailto:sales@smartbear.com)

SmartBear (SmartBear) のサポート方針については、Support ポータルを参照してください。

➤ <http://support.smartbear.com/>

## エクセルソフト株式会社へのお問合せ

TestComplete に関する質問、問題、その他のお問い合わせについては、エクセルソフト株式会社の下記のお問合せページからお気軽にご連絡ください。

<http://www.xlsoft.com/jp/qa/>

## 索引

<b>A</b>		<b>さ</b>	
Android テスト 要件 .....	13	サイレント インストール .....	33
<b>F</b>		2つの方法の違い .....	33
Floating User (フローティング ユーザー) ライセンス .....	21	InstallShield を使用する .....	36
<b>L</b>		特定のコマンドライン引数を使用する .....	34
License Manager .....	23	削除 .....	28, 30
<b>N</b>		TestComplete .....	30
Node-Locked (ノードロック) ライセンス .....	21	TestComplete の機能 .....	28
<b>S</b>		サポート .....	42
SmartBear License Manager .....	23	サポートを受ける .....	42
SmartBear 連絡先情報 .....	42	<b>し</b>	
<b>T</b>		システム要件 .....	6
TestComplete のアンインストール .....	30	自動アクティベート .....	24
TestComplete の機能の追加 .....	28	手動アクティベート .....	25
TestComplete の修復 .....	29	<b>せ</b>	
TestComplete のメンテナンス .....	28	設定 - エクスポートとインポート .....	31
修復 .....	29	設定のインポート .....	31
設定の保存と復元 .....	31	設定のエクスポート .....	31
変更 .....	28	設定のバックアップ .....	31
TestExecute .....	27	設定の復元 .....	31
<b>あ</b>		設定の保存 .....	31
アップデート .....	28, 29	<b>て</b>	
インストール .....	29	テクニカル サポート .....	42
確認 .....	29	<b>と</b>	
<b>い</b>		トラブルシューティング .....	38
インストール .....	17, 24, 33	<b>ひ</b>	
SmartBear License Manager .....	24	評価版ライセンス .....	21
TestComplete .....	17	<b>む</b>	
TestComplete サイレント .....	33	無人インストール .....	33
TestComplete の機能 .....	28	<b>も</b>	
TestExecute .....	27	モバイル テスト 要件 .....	13
<b>か</b>		<b>ゆ</b>	
管理者権限 .....	13	ユーザー権限 .....	13

## ら

## ライセンス

TestComplete ライセンスのアクティベート .....	21
TestExecute ライセンスのアクティベート .....	27
ライセンスのアクティベート .....	21, 22, 23

Floating User (フローティング ユーザー) ライセンス .....	23
Node-Locked (ノードロック) ライセンス .....	22
TestExecute .....	27
自動アクティベート .....	24
手動アクティベート .....	25
評価版ライセンス .....	21